

株式会社アムスク
2009年3月期中間決算説明会資料

於：野村證券日本橋本社

2008年12月3日

Contents

- I . 2009年3月期中間決算の概要
- II . 2009年3月期の業績(連結)見通し
- III . 今後の施策

- I . 2009年3月期中間決算の概要
- II . 2009年3月期の業績(連結)見通し
- III . 今後の施策

09/3中間決算(連結)P/L概要

中間利益は、悪化。繰延税金資産の取崩、たな卸資産の評価減の増加。

単位:百万円

	08/3期中間	09/3期中間			
	実績	実績	前年同期比	計画値	計画比
売上高	13,732	12,620	△8.1%	11,700	7.9%
営業利益	349	131	△62.5%	30	336.7%
経常利益	221	80	△63.8%	△65	-
中間純利益	187	△137	-	△130	△5.4%

- ・売上高は、前年同期比においては、民生分野が減少しましたが、計画比においては、娯楽機器、TVチューナー、自動車分野向けが好調に推移しました。
- ・利益面では、売上高が計画値を上回ったことによる営業利益の改善があるも、特別損失としてたな卸資産評価損(72百万円)を計上したこと、繰延税金資産の一部を取り崩した(82百万円)ことにより、四半期純利益が計画値を下回りました。

※計画値は2008年5月7日付にて開示致しました第2四半期累計の予想数値です

09/3中間決算(連結)B/S概要

資産圧縮により自己資本比率は前期末水準を維持(40.7%→41.0%)

単位:百万円

	08/3期 期末	09/3期 中間	増減		08/3期 期末	09/3期 中間	増減
流動資産	11,892	11,329	△563	流動負債	7,388	7,045	△343
現金及び預金	798	609	△189	買掛金	1,872	1,705	△167
受取手形及び売掛金	5,581	4,998	△583	借入金	4,878	4,819	△59
たな卸資産	4,722	5,139	417	その他	637	522	△115
その他	643	510	△133	固定負債	9	50	41
貸倒引当金	△8	△1	7	負ののれん	-	42	42
繰延税金資産	155	73	△82	その他	9	8	△1
固定資産	751	701	△50	負債合計	7,397	7,096	△301
有形固定資産	236	232	△4	株主資本	5,164	4,950	△214
無形固定資産	276	237	△39	評価・換算差額等	△22	△16	6
投資その他の資産	238	232	△6	少数株主持分	103	-	△103
				純資産合計	5,245	4,934	△311
資産合計	12,642	12,030	△612	負債純資産合計	12,642	12,030	△612

【流動資産】売掛金は、売上高の減少に伴い、減少しました。

たな卸資産は、売上が減少したものの増加しました。

業績動向を踏まえ繰延税金資産の一部を取り崩しました。

【流動負債】下期の業績動向を踏まえ、買掛金は減少方向にあります。

借入金は、短期借入で資金需要に対応しています。

【固定負債】子会社2社の株式を純資産価格で買い取り、中間期末の純資産価格に対し、負ののれんが発生しました。当該買い取りにより、在外子会社はすべて100%出資の子会社となります。

09/3中間決算(連結)キャッシュフロー概要

営業キャッシュフロー黒字定着による有利子負債削減を継続

単位:百万円

	08/3期 中間	09/3期 中間
I 営業活動によるキャッシュフロー		
税金等調整前中間純利益	234	19
減価償却費	49	53
売上債権の増減額(増加:△)	934	649
たな卸資産の増減額(増加:△)	265	△386
仕入債務の増減額(減少:△)	5	△223
その他	16	17
小計	1,503	129
II 投資活動によるキャッシュフロー		
有形固定資産の取得による支出	△13	△5
無形固定資産の取得による支出	△10	△22
投資有価証券の売却による収入	112	15
子会社株式取得による支出	-	△112
その他	37	△3
小計	126	△127

	08/3期 中間	09/3期 中間
III 財務活動によるキャッシュフロー		
借入金の純増減額(純減少額:△)	△1,290	△131
配当金の支払額	△75	△76
その他	0	0
小計	△1,365	△207
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	16
V 現金及び現金同等物の増減額	259	△190
VI 現金及び現金同等物の期首残高	959	798
VII 現金及び現金同等物の期末残高	1,218	608

今中間期も営業キャッシュフローは黒字となりました。
捻出した資金についてはほぼ全額、有利子負債の返済に充当し財務体質の改善を図りました。

09/3中間決算 分野別売上概要

民生比率下がるも、産機が堅調

売上高合計126億円 %は構成比率

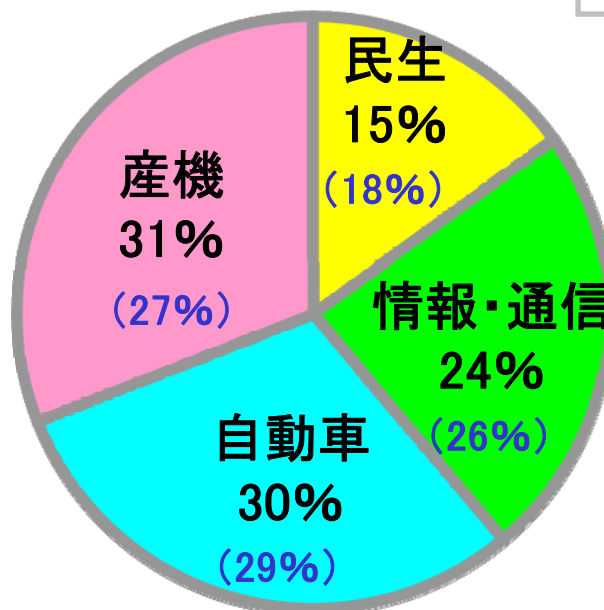
(%)は前年同期

【産業機器】

医療機器、計測機器
半導体テスター、製造装置
その他産業機器

【自動車】

エンジンコントロールユニット
エアバック、ABS、ボディ
カーオーディオ・カーナビ



【民生】

液晶TV
DVDプレーヤー、レコーダー
デジタル・スチル・カメラ
ゲームコントローラー等

【情報・通信】

デジタルTVチューナー
パーソナル・コンピュータ
携帯電話等

【民生】HDDVDの需要が見込めなくなったことから、前年同期を下回りました。一方家庭用ゲーム機器向けカスタムICが計画を上回りました。

【情・通】TVチューナーが計画を上回りましたが、前年同期を下回りました。

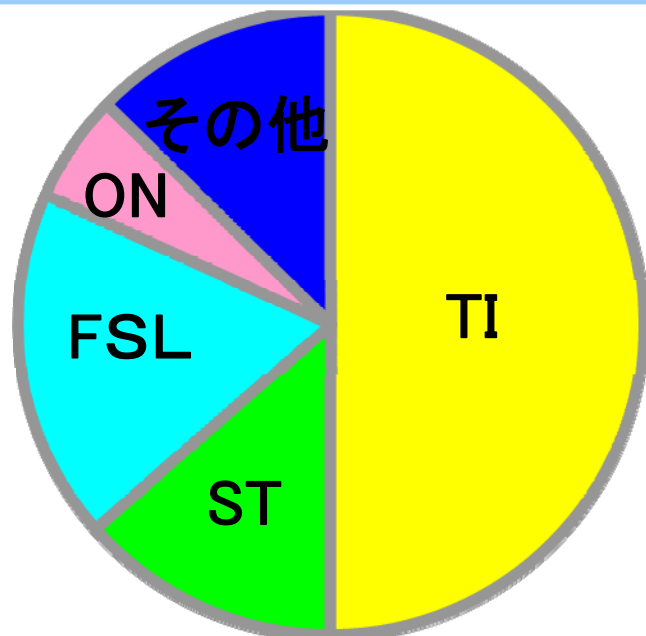
【自動車】需要の減少を見込んでいましたが、北米向けの需要が伸び、計画を上回りました。

【産機】半導体製造装置等の需要が落ち込みましたが、医療機器、家庭用防災機器が計画を上回り、前年を上回りました。

09/3中間決算 メーカー別売上概要

TIを中心とするアナログとマイコンの幅広いラインナップで顧客のアプリケーションをサポート

売上高合計126億円



T I: テキサス・インスツルメンツ

S T: STマイクロエレクトロニクス

F S L: フリースケール・セミコンダクタ

O N: オン・セミコンダクタ

【T I】HDDVDが減少しましたが、家庭用ゲーム機器向けカスタムIC、AED等医療機器、家庭用防災機器が計画を上回りました。

【S T】前年堅調であったTVチューナーの減少を見込んでいましたが、需要が計画を上回りました。

【F S L】北米向けのエンジンコントロールユニット、携帯型ナビゲーション等カーオーディオ機器が堅調に推移しました。

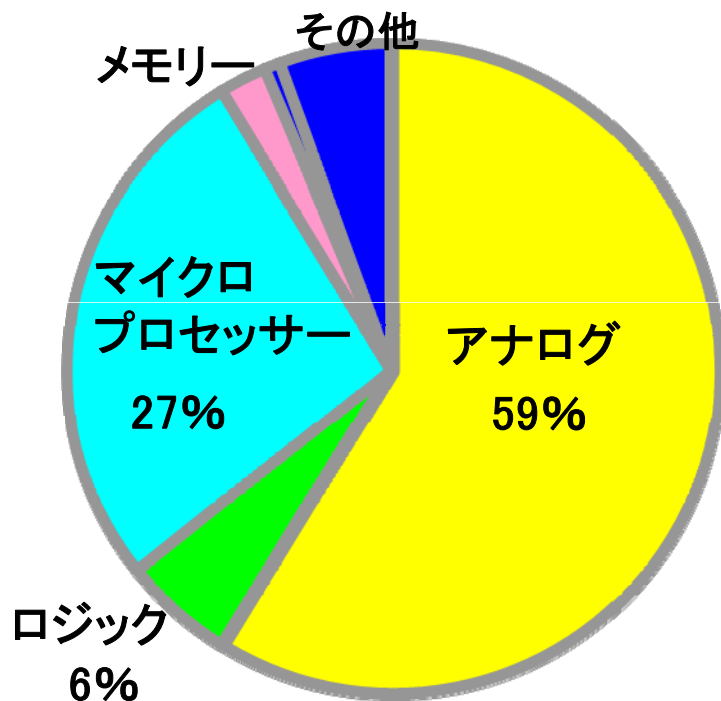
【O N】車載機器、モバイル、スーパーコンピュータ向けが堅調に推移しました。

【その他】小型液晶製品が、デジカメ等に搭載され計画通り推移しました。

09/3中間決算 品目別売上構成

アナログ & マイコンの技術サポート力が当社の強み

売上高合計126億円 %は構成比率



分類	特徴	小分類	主な用途
アナログ	デジタルに対し、連続した信号を扱うIC	チューナー オペアンプ コンバーター インターフェース レギュレータ ディスプレイ	電源装置 通信機器 計測機器 AV機器 制御機器
ロジック	汎用理論素子、デジタル回路を構成する標準IC		計測機器 コンピュータ OA機器
マイクロプロセッサ	コンピュータの頭脳部分で、機器の中に組み込んだ形で使用されるIC	8bit 16bit 32bit	自動車機器 通信機器 アミューズメント機器
メモリー	記憶素子IC	DRAM、FLASH EEPROM	コンピュータ

【アナログ】アナログ・デジタル変換回路や、電源等、電子機器に欠くことのできない製品群を有し、産業機器を中心に裾野の広い顧客をサポートできるのが、当社の特徴です。

【マイコン】お客様の設計段階から、当社の技術力をベースにサポートできるのが強みです。サードパーティー（開発委託会社）とのコンビネーションで、細かなサポートが可能です。

- I. 2009年3月期中間決算の概要
- II. 2009年3月期の業績(連結)見通し
- III. 今後の施策

09/3期の業績修正の理由

1. 事業環境の変化

- ・米国金融不安に伴う景気の減速感
- ・生産調整及び設備投資の抑制
- ・電子機器市場の競争激化による収益環境の悪化

2. 下期計画の見直しによる影響

- ・半導体製造装置・テスターの売上減少

3. 繰延税金資産の取り崩しによる影響

- ・将来の課税所得の見直しによる、一部取り崩し

09/3期の業績見通し

下期は連結・個別ともにマイナス幅の縮小を目指す

(連結)

単位:百万円

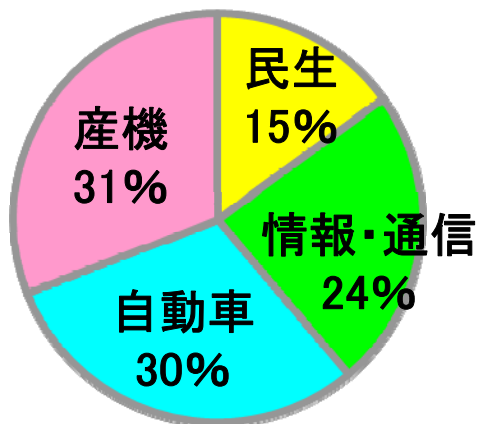
	2008/3期	2009/3期		
	実績	当初計画	修正計画	当初計画比
売上高	26,477	24,600	24,600	0.0%
営業利益	434	300	260	△13.3%
経常利益	193	110	120	9.1%
当期利益	81	10	△97	-

(個別)

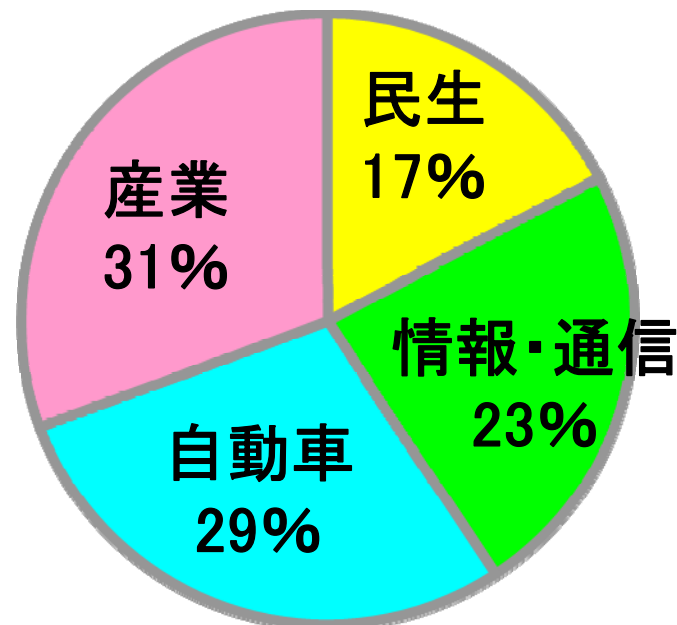
	2008/3期	2009/3期		
	実績	当初計画	修正計画	当初計画比
売上高	22,509	19,600	18,800	△4.1%
営業利益	186	165	35	△78.8%
経常利益	40	80	△30	-
当期利益	0	0	△180	-

09/3期 分野別売上見込み

市場の環境が厳しい中、メディカル、アミューズメントに期待



上期売上高合計 126億円



通期売上高合計 246億円

- 【民生】アミューズメント(遊戯機器)、Note PC 向けカスタムICの立ち上がりが見込まれます。
- 【情・通】地上波デジタルチューナーが引き続き堅調に推移する見込みです。
- 【自動車】自動車市場は大幅な減産が見込まれますが、FSL製品については、全数販売する事を見込んでいます。
- 【産機】半導体製造装置等の設備投資は減速しますが、AED等医療機器が堅調に推移する見込みです。

財務の健全化により自己資本比率50%を目指す

単位:百万円

	09/3期 中間	09/3期 期末	増減		09/3期 中間	09/3期 期末	増減
流動資産	11,329	9,180	△2,149	流動負債	7,045	4,840	△2,205
現金及び預金	609	970	361	買掛金	1,705	1,550	△155
受取手形及び売掛金	4,998	4,090	△908	借入金	4,819	2,800	△2,019
たな卸資産	5,139	3,500	△1,639	その他	522	490	△32
その他	510	548	38	固定負債	50	50	0
貸倒引当金	△1	△1	0	負ののれん	42	38	42
繰延税金資産	73	73	0	その他	8	12	4
固定資産	701	684	△17	負債合計	7,096	4,890	△2,206
有形固定資産	232	231	△1	株主資本	4,950	4,990	40
無形固定資産	237	214	△23	評価・換算差額等	△16	△16	0
投資その他の資産	232	239	7	少数株主持分	0	0	0
資産合計	12,030	9,864	△2,166	純資産合計	4,934	4,974	40
				負債純資産合計	12,030	9,864	△2,166

【流動資産】売掛金は、売上高の減少に伴い、減少を見込んでいます。

たな卸資産は、フリースケールの在庫を一掃し、大幅に減少する見込みです。

【流動負債】在庫の適正化を踏まえ、買掛金は減少する見込みです。

フリースケールの在庫の減少により、借入金は減少する見込みです。

【固定負債】子会社2社の株式取得に伴う、負ののれんは5年の償却予定です。

たな卸資産の推移

期末在庫保有月数 1.7ヶ月(月商倍率)を実現

(連結)

単位:百万円

	05/3期	06/3期	07/3期	08/3期	09/3期 予
売上高	25,885	27,021	28,453	26,477	24,600
たな卸資産	4,948	3,942	4,964	4,772	3,500
在庫保有月商倍率	2.3ヶ月	1.8ヶ月	2.1ヶ月	2.2ヶ月	1.7ヶ月

在庫保有月商倍率 = たな卸資産 ÷ (売上高 ÷ 12)

- ・ 顧客所要情報の更新頻度を高め、適正在庫水準を実現 1.5ヶ月維持を目標
- ・ 産業分野別の在庫保有月数管理の徹底

借入金の推移

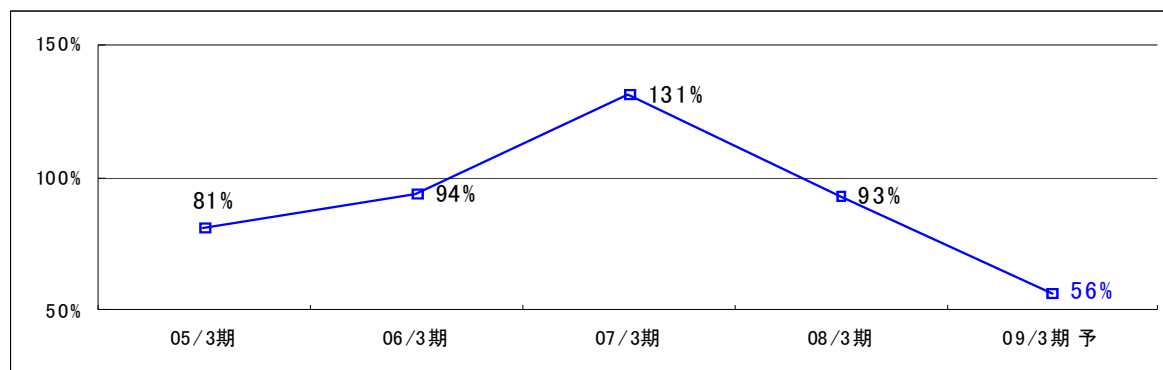
有利子負債の削減 期末DELシオ60%を実現

(連結)

単位:百万円

	05/3期	06/3期	07/3期	08/3期	09/3期 予
借入金	4,425	4,480	6,906	4,877	2,800
純資産	5,449	4,770	5,269	5,244	4,974

(DELシオ)



DELシオ
= 借入金 ÷ 純資産

- ・ 在庫の削減による資金効率の向上により、有利子負債比率の適正化を実現
- ・ 本格的な市況の悪化に備え、健全な財務を維持

- I . 2009年3月期中間決算の概要
- II . 2009年3月期の業績(連結)見通し
- III . 今後の施策**

当社の強みを再認識し、販売力・技術力を強化！

基本方針・戦略

- ・生産性の高い事業分野、製品を選択し、リソースを集中する
- ・当社の強み、コア・コンピテンスである、『アナログ・マイコン半導体の技術サポート力、販売力』を更に特化、強化する事により、取引先様への貢献度、収益力を向上する
- ・技術力、販売力強化の為の教育活動、人材確保を行う
- ・大手顧客、中規模顧客の開発、生産活動を、技術サポート、量産サポートを通し支援する
- ・戦略、政策の相違により、リースケール社との販売代理店契約は09年3月末をもって合意解約する

今後の施策1

<アナログ>

アナログ顧客の裾野の広さを活用し、国内中堅顧客の掘り起こしと、新たな販路の開拓を行います。

<マイコン>

仕入先との協業により、マイコンの販売を拡大します。

- ・TIのRF系マイコンファミリーのラインナップ充実による販売体制を強化します。
- ・STと32bitマイコンの包括的サポートに関するパートナーシップを結び、STM32 シリーズの拡販体制を確立します。

今後の施策2

<新規商材>

新規商材の追加により新たな販路の開拓を行います。

- ・新たに3社と代理店契約を締結しました。

ナノテック社2008年10月(光通信IC)

リーバ社2008年11月(RFID装置)

サイコン社2008年12月(アナログIC)

- ・ONセミコンダクター社

新たな商材の追加により、汎用品からフルカスタム

ASICまでビジネス創出のチャンス拡大が見込まれます。

<海外>

顧客のアジア開発拠点化に対応し、サポート体制を強化

- ・中国ローカルFSE採用により中華圏をサポートします。
- ・TIのAP代理店権をトリガーに、日系顧客のビジネスチャンスの拡大に繋がります。

新規ライン 今後成長が見込まれる分野でパートナーシップ増強！

08年度実績：新規に3社契約 現在新たに数社検討中



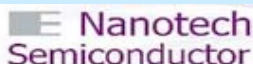
ディスプレイ市場



センサー市場



車載市場



高速通信市場



RF-ID市場



エネルギー・電源市場




多用途市場



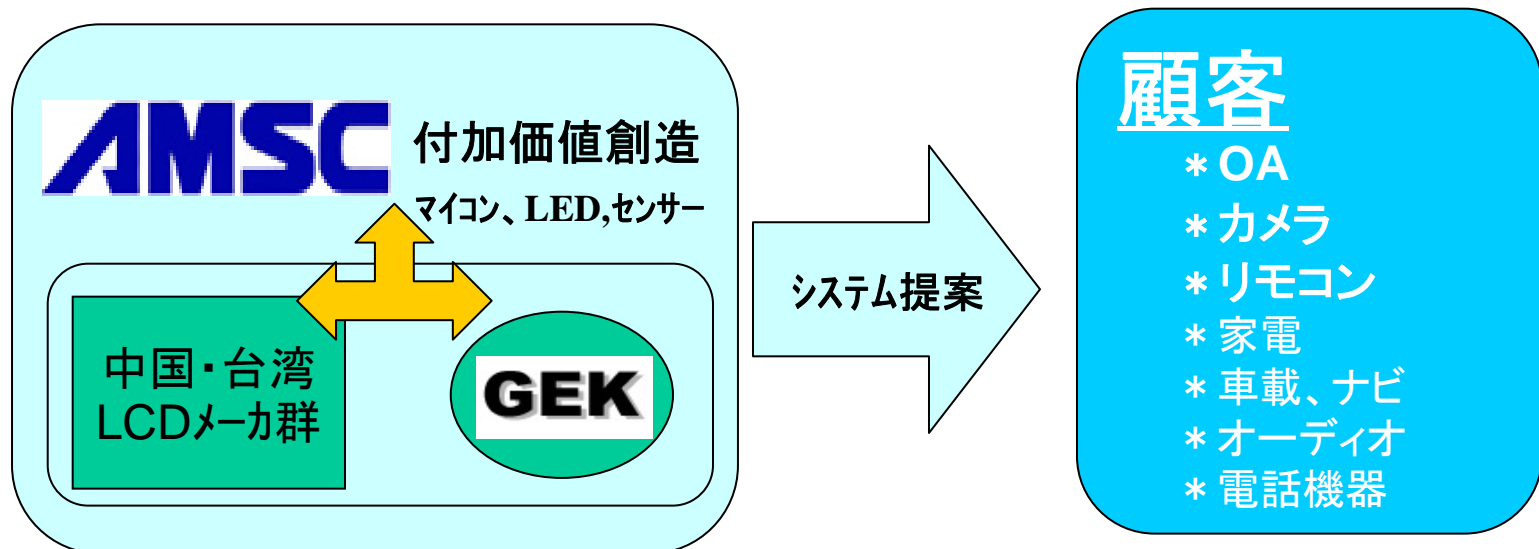
メディア市場



注) 新規ラインの定義：TI、ST、FSL、ONを除く商材  は、新規契約

低価格要請に対応するVA、CD提案

- ・低価格、多様化に対応する体制構築
- ・中国・台湾メカ群との連携によるQ/C/D
+ 開発TAT面での最適製品推奨
- ・廉価型補完部品（マイコン等）と組み合わせたシステム提案



部品 & システム・ソリューションの提案

System Integrator



ミドルウェア、データ集積



CONVERGENCE SYSTEMS LIMITED

アンテナ、R/W



シリコンチップ、タグ、R/W



アンテナ



システム
サーバー
ミドルウェア

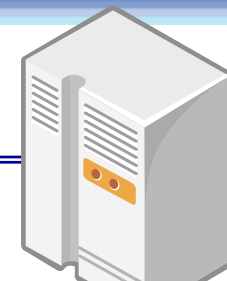
タグ
ラベル
ミドルウェア

最終顧客

- * 流通、輸送、集配
- * サプライチェーン
- * 薬品
- * 化粧品
- * リサイクル
- * セキュリティ

R/W : Reader writer

エネルギー・電源市場 = 電力変換 =



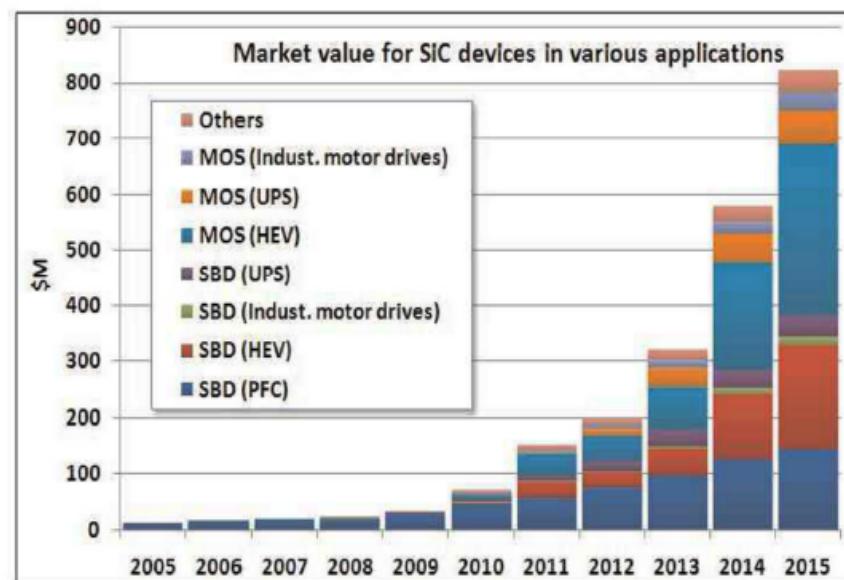
太陽光発電、環境対策機器市場は今後有望

- ・市場はEco. CO₂対策で追い風
(大容量電源、EV車載、交通、太陽光発電等)
- ・パートナーはSiC業界をリードしているCree社、ST社等
- ・SiC製品は FETやIGBT
と組合せて威力を発揮
(電力変換効率が抜群)
- ・市場は2010年から
本格立ち上がり (引合増加中)

SiC : Silicone Carbide

FET: Field effect transistor

IGBT : Insulated Gate Bipolar Transistor

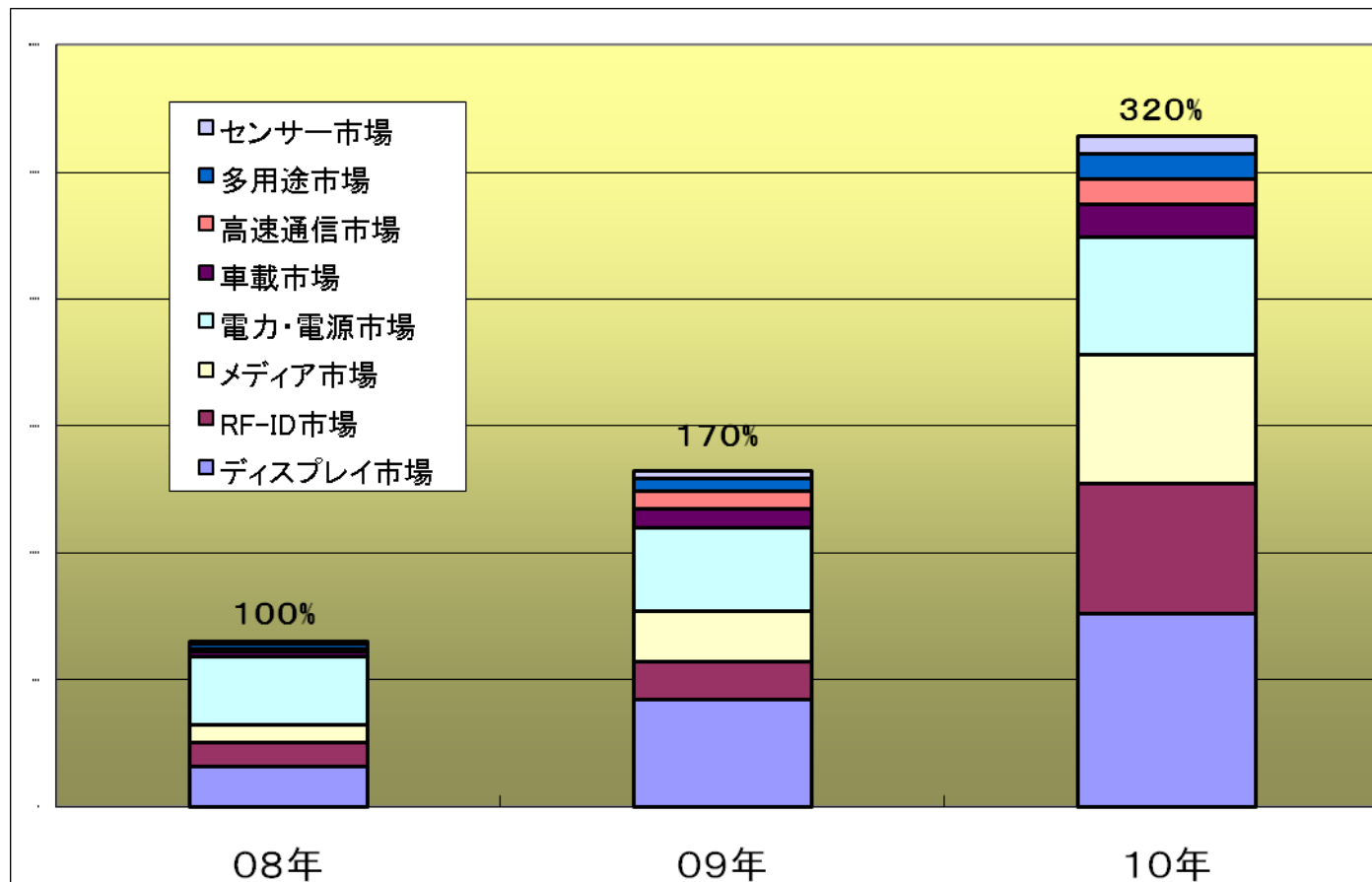


Silicon carbide electronic device market, segmented by device type.

出所：CREE社

新規ラインのビジネス計画 成長分野へ積極展開を図る！

CAGR(08年-10年) = 78%の成長を見込む ⇒ 2010年で3.2倍



注) グラフは2008年を100とした伸長(金額比)

『世界の最先端エレクトロニクス技術で、お客様の創造をサポートする』



本日はありがとうございました。

今後ともご支援宜しくお願いいたします。

本資料には、業績見通し及び事業計画等も記載しております。

それらにつきましては、作成時点における経済環境や事業方針などの一定の前提に基づいて作成しております。

従って、実際の業績は、様々な要素によりこれらの業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おきください。

資料に関する問い合わせ先
株式会社アムスク
IR担当: 奥原
TEL: 0422-54-0006
mail: ir@amsc.co.jp